

2022年10月9日

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒203番（旧108番）（SK姉）

『明日の来ぬ間に』

聖書⇒マタイによる福音書 24:36~44節（MM姉）

『「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ、父だけがご存じである。人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、洪水が襲って来て一人残らずさらうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。そのとき、畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入らせはしないだろう。だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 22:20~21節

『以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、わたしはすぐに来る。」

アーメン、主イエスよ、来てください。主イエスの恵みが、すべての者と共にあるように。』

礼拝讃美歌⇒209番（旧301番）

『いつかは知らねど』

礼拝讃美歌⇒476番（旧301番）

『いかなる恵みぞかかる身をも』

聖書⇒詩編 8:4~10節（ES姉）

『あなたの天を、あなたの指の業を／わたしは仰ぎます。

月も、星も、あなたが配置なさったもの。

そのあなたが御心に留めてくださるとは／人間は何ものなのでしょう。

人の子は何ものなのでしょう／あなたが顧みてくださるとは。

神に僅かに劣るものとして人を造り／なお、栄光と威光を冠としてただかせ御手によって造られたものをすべて治めるように／その足もとに置かれました。

羊も牛も、野の獣も

空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。

主よ、わたしたちの主よ／あなたの御名は、いかに力強く／全地に満ちていることでしょう。』

聖書⇒創世記 1:26~27 節

『神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。

男と女に創造された。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒139 番 (旧 48 番) (KH 兄)

『神の小羊』

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 22:14~20 節 (KH 兄)

『時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言うておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。言うておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

(式)

礼拝讃美歌⇒405 番

『愛する者を養うために』

## 《建徳》

聖書⇒ルカによる福音書 14:15~24 節 (KH 兄)

『食事を共にしていた客の一人は、これを聞いてイエスに、「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう」と言った。そこで、イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人を招き、宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう用意ができましたから、おいでください』と言わせた。すると皆、次々に断った。最初の人には、『畑を買ったので、見に行かねばなりません。どうか、失礼させてください』と言った。ほかの人には、『牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べに行くところです。どうか、失礼させてください』と言った。また別の人は、『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』と言った。』

礼拝讃美歌⇒461 番 (旧 128 番詞)

『聞けおとずれ』

《建徳要旨》